



# 寺川綾

50m背泳ぎ：27秒71 ① NR  
100m背泳ぎ：59秒00 ① NR  
200m背泳ぎ：2分07秒84 ①

## ジャパンオープン2012

# それぞれの、目指す先へ。

五輪代表選手たちの壮行会も兼ねた、ジャパンオープン2012。本番でメダルを狙える位置にいる選手たちは、この大会で何を得て、五輪へ向かうのだろうか。活躍が期待される6人の選手たち。そのまなざしの先に写るものは？

取材：本誌編集部(田坂友映)  
写真：中村博之

### 8年越しの夢に向かつて

課題は、スタートやターン、浮き上がりなどの細かい技術だった。「記録ではなく、改善すべき課題がレースでできるかどうかを試したい」と、公式練習日に寺川綾(ミス)は話していた。その結果が、50mと100m背泳ぎでの日本新記録(27秒71、59秒00)樹立、200mでも2分07秒84で、3種目すべて自己ベストという最高の成績である。日本代表の第二次合宿も始まり、五輪へ向けた過酷なトレーニングの真っ最中。調子は、日本選手権と比べて良くない。それでもベストを更新できたのは、確実に地方がついてくる証である。「浮き上がりもうまくいったし、テンポを上げて泳ぎが崩れなかった」。寺川は、掲げた課題に及第点を与える「今のコンディションを考えれば、上出来」と、平井伯昌へほどけられた。

「100mで結果を出したい。勝負はラスト15m。自信を持ってロンドンに向かいたいと思います」と、寺川は表情を引き締める。心に期すのは、昨年の世界選手権で苦汁をなめた100mでのリベンジ。もうすでに課題はクリアした。あとはビークをピンポイントで合わせられるかどうかだけだ。



# 松田丈志

100mバタフライ：52秒48 ②  
200mバタフライ：1分54秒69 ①

### 怪物退治まで、カウントダウン開始

寡黙な男は、着実に怪物退治のための準備を進めている。200mバタフライ決勝。少なくとも4月のタイムは上回りたいと臨んだものの、結果は0秒68及ばない、1分54秒69。「53秒台は出したかったので、残念ですね」と、松田丈志(コスモス薬品)は淡々と話す。取極もあつた。

を出すために第2キックのタイミングを早めたこと。結果、スピードは出たものの、第2キックから第1キックまでに、間ができて、泳ぎが止まる瞬間ができてしまったのだ。それに比べて今大会は、身体にキレはないものの、とても滑らかに水面を進んでいる。「目指すのは、常に進み続ける泳ぎ。それまでできてきているし、今の状態で強化していけばいいと思う。今大会で強化の方向性が定まったのは大きい」と松田も手こたえをつかむ。マイケル・フェルプス(アメリカ)に勝つんだ、という気持ちが高まる。良いレースだった。対決まで残りわずか。4年越しの悲願、なるか？



# 入江陵介

100m背泳ぎ：53秒30 ①  
200m背泳ぎ：1分54秒90 ①

### 新しい、入江が見せた可能性

200m背泳ぎ決勝、入江陵介(イトマン東進)は前半の100mを55秒29という、従来の日本記録のラップから50秒32も速く折り返す。会場は一気に盛り上がり、3年ぶりの日本記録への期待が高まる。だが、150mをターンしたあとにスピードダウン。泳ぎは全く崩れていないのだが、進まない。ラスト50m、あれほど進まない入江を見たのは、はじめてだった。レース後、道浦健吾コーチも「あんなに彼が浮いたレースは、はじめて見ました」と、苦笑いで報道陣に答える。

「とにかく積極的なレースを心がけていました。少し殻を破ることができた」と。入江はすっきりした顔で話す。昨年の世界選手権で、ライオン・ロクテ(アメリカ)にすべてのラップタイムを奪われたという完敗を喫した入江、彼に勝つために必要なことは後半の強さに加えて、前半のスピードアップだった。「個回も積極的なレースにチャレンジしてきたが、今回ようやくそれができた。ひと皮むけた」と道浦コーチ。「パテでも泳ぎは崩れていない。まだタイムは上がる」と意気込む入江。積極性という武器を手に入れた入江が、ロンドンでどんなレースをするのが、今から楽しみだ。



# 星奈津美

100mバタフライ：58秒57 ②  
200mバタフライ：2分07秒45 ①

## 目指す先は、五輪のみ

前半からキレがない。それどころか、日本選手権のときと泳ぎ全く違う。今年度の世界ランキング1位に躍り出た星奈津美（スウィンズ大）。大会初日に行われた200mバタフライで見せた星のレースは、プレッシャーが大き過ぎるのか？と感じさせるレースだった。結果も2分07秒45という、平凡なタイムに終わる。その後体調を崩し貧血を起こした星は、ミックスプールに姿を見せなかった。

2日後の100mバタフライ、20



# 鈴木聡美

50m平泳ぎ：31秒73 ①  
100m平泳ぎ：1分08秒07 ①  
200m平泳ぎ：2分24秒37 ①

## 「笑顔」こそが活路を開く希望

関係者が驚きの声を上げた。日本選手権の女子200m平泳ぎ決勝は記憶に新しい。前半から飛ばすレースが当たり前だった鈴木聡美（山梨学院大）

0mのときとは打って変わって開き直った星の姿があった。しかも、別人のような泳ぎを見せ、58秒57の自己ベストを更新して報道陣の不安を吹き飛ばしてくれた。「200mはホロボロでしたが、ベストはスピードがついている証拠だし、自信になりました」と、ほっとした表情を浮かべた。

「五輪で勝負する200mの前半は0秒台をイメージしている。そうすれば周りと身体半分を折り返せるので、チャンスがある」と、すでに五輪での戦いを意識している。100分の1秒の悔しさを晴らせる日は、もうすぐだ。

が、後半に勝負をかけて、周りの選手に力の差を見せつける2分22秒99で優勝したレース。このタイムは昨年の世界選手権でも3位に相当する。

だが、今回は泳ぎもタイムもかみ合わない。200mを2分24秒37で制したものの「これほどキックが当たらないのは、はじめてでした」と、表情も暗い。思えば、初日の100mから表情は暗く、下を向く時間が長かった。鈴木は生命線であるキックの復調が、五輪で結果を残せるかどうかのカギを握る。鈴木は緊張し過ぎると表情もこわばり、泳ぎが一気に固くなる傾向が強い。すると、水面近くを這うように進んでいく泳ぎが影をひそめる。逆に言えば、リラククスできれば本来の潜在能力を存分に発揮できるのである。彼女が五輪で結果を残すために必要なのは、どんな状態でも自分の力を信じ、自信を持ち「笑顔」でレースに臨むことだろう。



# 立石諒

50m平泳ぎ：27秒79 ②  
100m平泳ぎ：1分00秒45 ①  
200m平泳ぎ：2分09秒07 ①

## 最も高い場所への決意

大会前、課題はスタートとターン。日本選手権で、北高（康介・アケエリ・アス、今回は欠場）さんにスタートだけで0秒6も持っていて、かれている。今回は細かいところに気をつけてレースをした」と話していた。立石諒（N.E.C.G.C玉川）。泳ぎに関しては、全体的に「まいちでした」というものの、課題としていたスタート、ターンは、2分09秒07で制した200m平泳ぎの決勝後、ようやく合格判定。報道陣の取材に答える姿は、自信にみちぎって見える。だが、本人は自分に対して「今の状態で100mはメダルを狙えると思っていない。海外選手は五輪本番になると、別人のように速くなる。僕もとにかく練習です。負けたくないの」と、厳しい評価を下す。しかし、記録から見るとメダル候補の1人であることは変わらない。「五輪は一生に1回あるかどうかの大舞台やるなら、いちばん高いところを目指したい」。日本選手の「ワン・ツ」が期待できる男子平泳ぎ。立石は五輪で「ワン」を獲りに行く。